

第4期中期目標・中期計画【5－2－①】に関する
令和5年度 自己評価書

国際企画推進室会議

中期目標・中期計画自己評価書検討部会

令和 5 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 ①令和 4 年度の自己評価書を公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施する。
【R5 年度行動計画(Plan)】 ・令和 4 年度の自己評価書を公表する。併せて、各事業で令和 5 年度の行動計画を実施する。 - また、1)-3)の各事業の実績をまとめた令和 5 年度の自己評価書を作成し、令和 6 年度の行動計画（取組改善案を含む）を立案する。
【R5 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 ・令和 5 年 6 月に、令和 4 年度自己評価書を本学 HP に掲載した。 https://www.kagoshima-u.ac.jp/international/2022_jikohyouka.pdf ・各事業で令和 5 年度の行動計画を実施し、実績のまとめを行った。あわせて、令和 6 年度の行動計画を立案した。
【R5 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】 ・計画どおり実施した。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R6 年度行動計画(Plan)に相当)】 ・令和 5 年度の自己評価書を公表する。 ・各事業で令和 6 年度の行動計画を実施する。また、各事業の実績をまとめた令和 6 年度の自己評価書をまとめ、令和 7 年度 of 取組改善案(取組改善案を含む)を立案する。

令和 5 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和 5 年度の行動計画を実施する。
「1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」 ・保農獣工連携家庭訪問事業
【R5 年度行動計画(Plan)】 ・令和 5 年度経営戦略経費に応募し、事業を継続する。フロリダ A&M 大学から工学と保健学の教員 2 名を招へいし、事業に参加していただくと共に、今後の交流についてディスカッションを行う。 ・海外学生との COIL に向けて、教材の英語版を作成する。 ・令和 4 年度に行った事業について英文論文を投稿する。
【R5 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 ・医学部から令和 5 年度経営戦略経費に応募し採択された。 ・保農獣工の担当教員と、事業前後に 5 回の全体会議を開催し、対象地域・対象者の選定、活動要項・活動記録の見直しを行い、実施後には事業の評価を行った。 ・令和 5 年度の事業を 11 月 23 日(金)～25 日(日)に、高度共通教育科目「Kagoshima de SDGs II」としてハイブリッドで行った。 ・参加学生は、学部生 8 名(看護学 2 名、作業療法学 2 名、理学療法学 3 名、農学 1 名)、大学院生 4 名(獣医学 1 名、工学 3 名)であり、その内、現地訪問 6 名、郡元キャンパスからのオンライン参加 6 名であった。教員は現地訪問 2 名、オンライン参加 11 名であった。 ・三島村の保健師と打ち合わせを行い、令和 5 年度は三島村硫黄島での事業とし、2 名の家庭訪問対象者を選定した。教員 1 名が保健師と共に現地を訪問し、対象者と打ち合わせを行った。また、三島村の保健師も事業に参加し、学生への助言を行った。 ・米国のフロリダ A&M 大学(FAMU)から 11 月 20 日(月)～27 日(月)に教員 1 名を招へいした。理工学研究科で受け入れ、甑島の視察および事業に参加し学生への助言を行った。また、今後の連携について打ち合わせを行った。 ・令和 4 年度に行った事業について論文にまとめ、英文雑誌への投稿準備を行った。 ・令和 4 年度に作成した教材の英語翻訳を行い、今後の国際展開を見据え英語字幕版を作成した。 ・令和 5 年 3 月に実施した、三島村の看護職 8 名を対象とした調査について分析を終了し、論文としてまとめた。 ・三島村で乳幼児を育てている父親と母親 12 名を対象とした調査を実施した。

【R5 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】

- ・ 当初の計画どおり、保農獣工の学生 12 名が参加し、事業を実施することができた。コロナ禍明けで、初めて現地への訪問が叶い、有意義な事業となった。
- ・ FAMU から教員 1 名を招へいし、実際の事業に参加してもらい、今後の大学間連携について話し合えたことは、事業の国際展開に向けてのステップとなった。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R6 年度行動計画(Plan)に相当)】

- ・ 工学部から令和 6 年度経営戦略経費に応募する。
- ・ FAMU とのオンライン協働学習を実施し、国際的な教員間連携を強化する。FAMU 側の経費で教員・学生の来鹿を予定しており、本事業との協働によって、離島への実渡航による国際連携家庭訪問事業への展開を図る。
- ・ 看護職と住民への調査結果について、学会誌に投稿する。

令和 5 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和 5 年度の行動計画を実施する。
「1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」 ・国際共修教育(オンライン含む)の推進とワーキングの設置
【R5 年度行動計画(Plan)】 ・ 海外研修やオンラインを利用して行う海外連携大学との国際協働学習だけでなく、本学に留学している外国人学生と国内学生との共修を推進する。特に、大学教育の基礎となる、共通教育及び高度共通教育において国際共修科目を拡大することを目的に、ワーキングを設置する。
【R5 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 ・ 台湾教育部(日本の文部科学省に相当)が助成し、国立中央大学が実施する University Social Responsibility Project においてオンライン国際協働学習(COIL)や双方向の海外研修を継続実施、地域防災をテーマとする新たな国際共修科目の開発や産学連携プロジェクト実施を目的に、中心となる教員(5 名)を現地視察と打ち合わせのために派遣した。 ・ 外国人学生と日本人学生が地域課題について共に学ぶ科目として、Kagoshima de SDGs I (Online Lecture) & II (Field Study) の見直しを行い、2023 年後期から再スタートさせた。 ・ 日本人学生と留学生の学内国際共修活動を目的としたランチタイムテーブル活動を 2 ヶ月間実施し、のべ 80 人超の学生が参加した。 ・ 国立中央大学に訪問し、現地担当者と協議を行った。その結果、R6 年度に、オンライン、訪台、来日による 3 種類の国際共修を実施する約束を取り付けた。
【R5 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】 ・ 大学教育の基礎となる、共通教育及び高度共通教育において国際共修科目を拡大することを目的とする活動(ワーキング)をスタートさせることができた点は、計画どおりである。 ・ 外国人学生と日本人学生が地域課題について学ぶ高度共通教育科目、2 科目について見直しを行い、新たなメンバーで再スタートできたことはとても評価できる。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R6 年度行動計画(Plan)に相当)】 ・ 国立中央大学と本学との間で大学間学術交流協定を締結し、両大学間の国際共修について制度的安定化を図り、地域防災をテーマとする国際共修を実施する。それを 1 つのモデルに、国際共修の全学展開を推進する。

令和 5 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和 5 年度の行動計画を実施する。
「1) 地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」 ・大学の世界展開力強化事業の継続的实施
【R5 年度行動計画（Plan）】 ・本事業で協力体制を築いた関係大学との連携を継続するとともに、本学の留学生と国内学生との間の国際共修を推進し、教育の国際通用性をさらに高める。 ・本事業の継続的实施を目的に、令和 5 年度大学の世界展開力強化事業に申請した。新事業では、前回のプログラムを学部 1-2 年生や他の学部・専攻にも拡大するとともに、SDGs や GX という、より今日的かつ地域的課題をテーマとした課題解決型リサーチプログラムの開発を目指している。事業に採択された場合は、本事業特有のプロジェクト管理・会計上の問題を教職員の協働によって全学的に解決する場とする「大学の世界展開力強化事業運営委員会」を、国際交流委員会の下に設置する。
【R5 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・令和 5 年度大学の世界展開力強化事業は不採択となったため、今後の対応および将来ビジョンについて令和 5 年 11 月末をめどに原案を作成し、関係者間で共有した。 ・海外大学との間でオンライン等を活用した双方向交流を継続させるために、大学の世界展開力強化事業での連携大学を中心にしつつ、米国以外の協定校も加えて、JASSO 海外留学制度（協定派遣）と（協定受入）に応募した。派遣プログラムは採択され、受入プログラムは不採択（追加採択）となったが、鹿大「進取精神」支援基金により、受入プログラムを実施できるよう制度を整えた。その結果、台湾成功大学、ロッテンブルグ大学、アイルランガ大学、マラヤ大学、ブリティッシュコロンビア大学、全北大学、雲南農業大学、高雄大学へ学生を派遣し、米国ノースダコタ州立大学と雲南農業大学から学生を受け入れることができた。また、これらの大学と米国サンノゼ州立大学との間でオンラインによる協働学習を継続し、双方向交流を行なった。さらに研究予算を活用し、メーファルアン大学と鹿児島大学の教員が、オクラホマ州立大学を訪問し、交流を継続した。
【R5 年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・世界展開力強化事業を通して連携を築いた大学等と、実渡航による学生交流とオンライン国際協働学習、教員間の研究交流を実施することができた。新たに外部資金へ応募する際の本学のリソースとして、今後も継続する必要がある。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action) (R6 年度行動計画(Plan)に相当)】

- ・引き続き、大学の世界展開力強化事業で締結した協定等に基づく海外大学との交流活動を継続する。

令和 5 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和 5 年度の行動計画を実施する。
「1) 地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受入
【R5 年度行動計画（Plan）】 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受け入れに向け、当該修士課程の運営会議（CSLM）に出席する（9 月）。 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生の受け入れに向け、JV-Campus を用いた COIL で 1), 3) に関する予備学習プログラムを提供する（10 月から）。 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生を受け入れ、1), 3) 国際共修教育を実施する（1～2 月）。
【R5 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受け入れに向け、当該修士課程の運営会議（CSLM）に出席（オンライン）した（9 月）。また同様の趣旨にて同プログラムのコンソーシアム校であるアルゼンチン・コルドバ大学主催のサマースクールに参加し、同校評議会でプレゼンテーションを行った（2024 年 2 月）。 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生の受け入れに向け、manaba を用いた COIL で 1), 3) に関する予備学習プログラムを提供した。 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生を受け入れ、1), 3) 国際共修教育を実施した（1～2 月）。
【R5 年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・ 一部実施方法の変更はあったがすべて計画どおり実施した。
【上欄に基づく取組改善策の立案（Action）（R6 年度行動計画（Plan）に相当）】 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受け入れに向け、当該修士課程の運営会議（CSLM）に出席する（9 月）。 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生の受け入れに向け、manaba を用いた COIL で 1), 3) に関する予備学習プログラムを提供する（10 月から）。 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生を受け入れ、1), 3) 国際共修教育を実施する（1～2 月）。

- ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・サマースクールを実施する（2月を予定）。

令和 5 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和 5 年度の行動計画を実施する。
「2)外国語教育」 ・英語授業内での SDGs 関連の取り扱いの検証 ・学生の英語力の客観的把握方法の検討
【R5 年度行動計画（Plan）】 ・SDGs をどの程度授業で扱っているのかを、使用した教科書の実績やシラバスの SDGs の項目のチェック数などで検証を試みる。 ・令和 5 年度も引き続き、前年と同じ外部試験（G-TELP）を導入するとともに、令和 4 年度の試験結果を得て、検証する。
【R5 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・SDGs に関しては、R4 年度の共通教育英語の Web シラバスの内、リーディング授業（英語 IA と IIA）を中心に 1 年生の英語クラスの分析を実施した。94 クラス中、65 クラスで SDGs を取り扱っており、これは 69%に成る。1 年生対象の共通教育英語（英語 IA、IIA、IB、IIB、英語 I、英語 II）208 クラス中、124 クラスで SDGs を取り扱っており、これは 59%に成る。 ・R6 年度の推奨テキストリストのリーディング部分に SDGs 関連の教科書を加え、R6 年度推奨テキストリストに SDGs 関連の教科書を加える更新をした。 ・R5 年度の前期と後期に外部試験（G-TELP）を実施した。 ・R3 年度後期と R4 年度前期・後期に実施した外部試験（G-TELP）の比較・分析を行い、その結果を『鹿児島大学 共通教育英語 英語教育活動報告書 IV<令和 2(2020)年度—令和 4(2022)年度>』に収め、図書館のリポジトリにて公開した。
【R5 年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・SDGs をどの程度授業で扱っているのかを、Web シラバスの SDGs の項目のチェック数などで検証を試みた。 ・経営戦略経費に申請して財源を確保した英語外部試験について検討した結果、G-TELP を実施することとし、1 年生と 2 年生前期・後期の全学生に試験を実施した。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)（R6 年度行動計画(Plan)に相当）】 ・SDGs をどの程度授業で扱っているのかを、R5 年度の Web シラバスの SDGs の項目のチェック数などで検証を試みる。可能であれば R6 年度の Web シラバスも含め、検証を試みる。 ・R6 年度も引き続き、前年と同じ外部試験（G-TELP）を導入するとともに、令和 4 年度・R5 年度の試験結果を得て、検証する。

令和 5 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】令和 4 年度の自己評価書をまとめ、評価結果に基づく取組改善案を立案する。
「3) 外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ」 ・外国人留学生の日本語学習環境整備を目指したオンライン授業の実施、オンデマンド型教材の開発 ・留学生を対象としたキャリア教育、留学生のインターンシップに向けた取り組みの実施
【R4 年度行動計画（Plan）】 ・外国人留学生の日本語学習環境整備を目指したオンライン授業の実施、オンデマンド型教材の開発を行う。 ・キャリア形成支援センターとの協力関係を構築し、留学生を対象としたキャリア教育、留学生のインターンシップに向けた取り組みを行う。
【R5 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・対面で実施する授業に加え、10 月初旬の学期開始時に入国が間に合わなかった留学生を対象にオンラインクラスを実施し、桜ヶ丘・郡元キャンパスの学生が受講した。また、昨年作成した、漢字学習のためのオンデマンド型教材をさらに充実させるなど、多様な学習ニーズに応えるための学習環境づくりに取り組んだ。 ・キャリア形成支援センター教員と協力し、留学生のキャリア教育科目受講を推進したほか、令和 5 年 11 月 29 日にキャリア形成支援センターと共催で留学生のための就活ガイダンスを実施し、インターンシップ、日本での就職についての意識向上に努めた。
【R5 年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・漢字学習のためのオンデマンド型教材として昨年度 25 本の動画を作成したが、今年度はこれに続く内容で 25 本の動画を作成した。すでに作成済みのひらがな学習コンテンツとあわせ、初級学習者に必要な文字の学習が自律的に行えるようになった。口頭練習をオンライン授業で行い、ニーズによって文字を学習するという学習環境を整えることができた。 ・キャリア形成支援センターと共催の就活ガイダンスでは、外国人留学生の就職活動を支援する機関の協力を得て、実践的な情報を発信することができた。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)（R6 年度行動計画(Plan)に相当）】 ・引き続き、キャリア形成支援センターとの協力関係を構築し、留学生を対象としたキャリア教育、留学生のインターンシップに向けた取り組みを行うとともに、留学生の就職活動についての実態把握に努める。 ・外国人留学生の多様なニーズに対応する日本語・日本文化教育の実施

参考資料（別紙）

2023 年度 SJP 科目受講者の情報：開講クラス、受講者の国籍、在籍身分

科 目		受講者数	性別		修了者数	受講者の在籍資格						専門・所属																				
			男性	女性		学部生	大学院生	研究生	予備教育生	短期等	研究員	家族等	農学	共同獣医	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	人文	教育研	保険	理工	農林水産学	医歯	臨床心理	共同獣医学研	連合農学	連合獣医	他大学
入門日本語1																																
入門日本語2																																
会話1A		17	10	7	15	0	7	1	0	9	0	0	0	1	1	0	0	2	1	0	0	2	0	0	3	6	0	0	1	0	0	0
会話2A		17	6	11	12	0	1	11	1	4	0	0	8	1	0	0	2	4	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
会話3A		5	1	4	5	0	0	3	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会話4A		7	4	3	6	0	1	2	0	4	0	0	1	0	0	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会話5A		13	7	6	13	0	0	0	0	13	0	0	1	0	0	0	0	8	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会話6A		16	4	12	16	0	0	2	0	14	0	0	0	0	0	0	1	8	5	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会話7A																																
総合日本語1		24	7	17	24	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	12	5	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合日本語2		19	7	12	19	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	11	4	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
演習1A		17	10	7	14	0	7	1	0	9	0	0	0	1	1	0	0	2	1	0	0	2	0	0	3	6	0	0	1	0	0	0
演習2A		9	3	6	8	0	2	3	1	3	0	0	1	1	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
演習3A		7	2	5	6	0	1	4	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
読解4A		6	2	4	6	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
読解5A		21	11	10	18	0	0	2	0	19	0	0	2	0	0	0	1	11	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
読解6-1A 論文読解基礎		16	5	11	16	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	9	3	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
読解6-2A		13	4	9	13	0	0	1	0	12	0	0	0	0	0	0	0	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
読解7A																																
作文4A																																
作文5A		19	8	11	18	0	0	1	0	18	0	0	2	0	0	0	0	9	6	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
作文6A		13	5	8	12	0	0	2	0	11	0	0	0	0	0	0	1	9	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
作文7A		10	1	9	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コンピューター実習1																																
漢字		10	3	7	9	0	1	3	1	5	0	0	0	1	0	1	1	5	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
日本語ワークショップ A		41	15	26	34	0	1	2	0	38	0	0	1	0	0	0	2	20	9	0	2	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
留学生のための異文化理解																																
日本社会と文化 1		6	2	4	4	0	0	2	0	4	0	0	1	0	0	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本社会と文化 2		14	7	7	13	0	0	0	0	14	0	0	1	0	0	0	0	9	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修了レポート		2	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語プレゼンテーション		7	3	4	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語研修生レポート		7	3	4	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SJP科目 小計		336	132	204	307	0	21	43	3	269	0	0	20	5	2	4	13	156	63	0	8	38	0	0	7	18	0	0	2	0	0	0
オンラインクラス	Step1	2	0	2	／	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
	Step2	5	1	4	／	0	1	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	
	計	7	1	6	／	0	3	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	0	0
グローバルセンター開講科目 総計		343	133	210	307	0	24	45	3	271	0	0	22	5	2	4	13	156	63	0	8	38	0	0	7	21	0	0	3	1	0	0
日本語I*		19	11	8	／	19	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	9	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語II*		22	13	9	／	17	2	1	0	2	0	0	1	0	1	0	8	9	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本事情A*		19	10	9	／	18	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	8	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
共通教育科目 計		60	34	26	／	54	2	1	0	3	0	0	5	0	3	0	25	22	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注)1 数字は延べ数。

2 専門・所属：予備教育生はそれぞれの専門によって分類。

3 短期等：特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。

4 修了者数欄

⧵

 は修了認定をしない授業。

5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。

6 グレーセル：開講しなかった科目

各授業の受講者数、性別、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属
令和5年度後期

科 目		受講者数	性別		修了者数	受講者の在籍資格					専門・所属																		
			男性	女性		学部生	大学院生	研究生	予備教育生	短期等	農学	共同獣医	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	人文	保険	理工	農林水産学	医歯	臨床心理	共同獣医学研	連合農学	連合獣医	他大学
会話1B		11	8	3	7	0	6	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	2	1	0	1	
会話2B		13	5	8	10	0	5	2	0	6	1	0	0	0	1	5	1	0	0	0	1	3	0	0	1	0	0	0	
会話3B		10	6	4	10	0	1	6	0	3	1	1	0	0	1	4	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
会話4B		13	7	6	10	0	1	6	0	6	1	0	0	0	2	3	3	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	
会話5B		14	8	6	12	0	1	1	0	12	0	0	0	1	1	7	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
会話6B		10	2	8	9	0	0	0	0	10	0	0	0	0	1	4	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
総合日本語1		17	2	15	17	0	0	2	0	15	0	0	0	0	0	7	1	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	
総合日本語2		15	1	14	15	0	0	1	0	14	0	0	0	0	0	5	1	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	
演習1B		11	8	3	8	0	6	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	2	1	0	1	
演習2B		11	5	6	7	0	3	2	0	6	1	0	0	0	1	5	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0
演習3B		12	8	4	10	0	1	6	0	5	2	1	0	0	1	3	2	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0
読解4B		6	4	2	4	0	1	3	0	2	1	0	0	0	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
読解5B		15	8	7	10	0	0	3	0	12	0	0	0	1	2	8	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
読解6-1B 論文読解基礎		18	3	15	17	0	0	1	0	17	0	0	0	0	0	5	2	0	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	
読解6-2B		8	2	6	8	0	0	2	0	6	0	0	0	0	1	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
作文5B		11	6	5	10	0	0	1	0	10	0	0	0	1	0	6	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
作文6B		8	3	5	8	0	0	1	0	7	0	0	0	0	0	5	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
作文7B		14	5	9	14	0	0	2	0	12	0	0	0	0	1	9	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
漢字		9	4	5	7	0	1	2	0	6	1	0	0	0	1	5	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
日本語ワーキングショップ B		37	15	22	32	0	0	2	0	35	1	0	0	1	2	14	10	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本社会と文化 1		7	5	2	5	0	0	4	0	3	1	0	0	0	1	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本社会と文化 2		14	6	8	13	0	0	0	0	14	0	0	0	0	1	5	5	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
留学生のための異文化理解 ※		1	1	0	1	—	0	0	1	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SJP科目 小計		285	122	163	244	0	26	55	3	201	12	2	0	4	18	107	47	0	5	56	0	2	17	2	0	8	2	0	3
オンラインクラス	Step1	10	4	6		0	3	0	0	7	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	
	計	10	4	6		0	3	0	0	7	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	
グローバルセンター開講科目 総計		295	126	169	244	0	29	55	3	208	12	2	0	10	18	107	47	0	5	56	0	2	19	4	0	8	2	0	3
日本語Ⅲ*		17	9	8		16	0	0	0	1	1	0	1	0	8	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本語Ⅳ*		18	10	8		17	0	0	0	1	2	0	1	0	8	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本事情B*		18	9	9		16	0	0	0	2	1	0	1	0	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
共通教育科目 計		53	28	25		49	0	0	0	4	4	0	3	0	24	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

注)1 数字は延べ数。
2 専門・所属：予備教育生はそれぞれの専門によって分類。
3 短期等：特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。
4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。
5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。
※ 共通教育科目に登録できない学生について記載

受講者の国籍
令和5年度後期

国籍	科目名																															
	会 話 1 B	会 話 2 B	会 話 3 B	会 話 4 B	会 話 5 B	会 話 6 B	総 合 日 本 語 1	総 合 日 本 語 2	演 習 1 B	演 習 2 B	演 習 3 B	読 解 4 B	読 解 5 B	読 解 6 I 1 B	読 解 6 I 2 B	作 文 5 B	作 文 6 B	作 文 7 B	漢 字	日 本 語 ワ ー ク シ ョ ッ プ B	留 学 生 の た め の 異 文 化 理 解	日 本 社 会 と 文 化 1	日 本 社 会 と 文 化 2	S J P 科 目 計	オンライン クラス		グ ロ ー バ ル セ ン タ ー 開 講 科 目 計	日 本 語 III	日 本 語 IV	日 本 事 情 B	共 通 教 育 科 目 計	国 別 人 数 総 計
																									S t e p 1	計						
イギリス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	3
インドネシア	0	3	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	2	0	1	1	13	8	8	21	0	0	0	0	21
エチオピア	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	
エジプト	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	2	0	0	2	10	0	0	10	0	0	0	0	10
オーストラリア	0	2	1	2	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	12	0	0	12	0	0	0	0	12
カンボジア	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	6	0	0	6	0	0	0	0	6
韓国	0	1	0	0	2	3	0	0	0	1	0	0	3	1	1	1	3	0	1	3	0	0	2	22	0	0	22	4	4	4	12	34
ジンバブエ	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	
スペイン	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	4	
スリランカ	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	4	
ソマリア連邦共和国	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	
タイ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	5	0	0	5	0	0	0	0	5
台湾	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	
中国	0	1	3	8	4	7	15	15	0	1	4	3	5	15	5	3	4	11	1	20	0	4	6	135	2	2	137	12	13	13	38	175
ドイツ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	
トルコ	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	3	0	0	2	13	0	0	13	0	0	0	0	13
バングラディシュ	3	1	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	8	0	0	0	0	8	
フランス	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	2	15	0	0	15	0	0	0	0	15	
ブラジル	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	9	0	0	9	0	0	0	0	9	
ブルキナファソ	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	3	0	0	0	0	3	
フィリピン	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	
フィジー	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	
ベトナム	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	3	
ペルー	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	3	
マラウイ	1	0	0	0	0	0	0	0	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	
マレーシア	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	1	1	1	3	5	
受講者総数	11	13	10	13	14	10	17	15	11	11	12	6	15	18	8	11	8	14	9	37	1	7	14	285	10	10	295	17	18	18	53	348

㊦) 1 数字は延べ数。

【第4期中期目標・中期計画】国際関係抜粋

中期目標	【5】学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携したオンラインの活用を含めた国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材を養成する。	
	中期計画	【5-1】国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充を目指して、必要となる協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定等によって、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流及びダブルディグリー・プログラム等で実現するグローバルな教育制度、海外活動における危機管理教育等の異文化での学習を支援する体制、並びに経済的支援等の制度を整備する。
	評価指標	①グローバルな教育制度や異文化での学習を支援する体制・制度に必要な協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定によって実施した事業数（第4期中期目標期間中の合計）
	水準	①10件以上
	設定理由	①「グローバルな教育制度」は、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流やダブルディグリー・プログラム、エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムへの参加、大学の世界展開力強化事業で締結したプログラム協定等の本学独自の海外大学との協定等の締結・改定で実現する制度、並びに、海外大学取得単位をカリキュラムに組込む学内の制度等を想定している。 また、「異文化での学習を支援する体制」は、オンライン国際協働学習（COIL）強化のための交流活動、課外外国語学習、海外活動における危機管理教育等の体制を、「異文化での学習を支援する制度」は、経済的支援制度等を想定している。 必要に応じてこれらの制度・体制に係る協定、規則、要項、マニュアル等を適切に締結・改定・策定することにより、世界的に拡大する海外教育機関等とのオンラインの活用を含めた国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充が実現できるため、それらを適用して実施した事業数を計画達成の評価指標と考える。
具体的取組		①1）「グローバルな教育制度」は、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流やダブルディグリー・プログラム、エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムへの参加、大学の世界展開力強化事業で締結したプログラム協定等の本学独自の海外大学との協定等の締結・改定で実現する制度、並びに、海外大学取得単位をカリキュラムに組込む学内の制度等を想定している。 また、2）「異文化での学習を支援する体制」は、オンライン国際協働学習（COIL）強化のための交流活動、課外外国語学習、海外活動における危機管理教育等の体制を想定し、3）「異文化での学習を支援する制度」は、経済的支援制度等を想定している。 必要に応じてこれらの制度・体制に係る協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定を適切に実施することにより、成果として、海外教育機関等とのオンラインの活用を含めた国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充を想定している。

中期計画	【5-2】地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材の養成を目指して、地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、外国語教育、外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ等を推進し、海外派遣・受入にオンラインの活用を含めた新たな双方向学生交流を促進する。	
	評価指標	①各事業の成果報告を全学的にまとめる仕組みの構築と自己評価結果に基づく取組改善策の立案状況
	水準	①成果を全学的にまとめた自己評価書を毎年度公表するとともに、評価結果に基づく取組改善策を実施する
	設定理由	①現在、これらの国際的な教育等について、全学的に情報をまとめる仕組みが存在しないため、この仕組みを構築し、自己評価書を毎年度公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施することで、新たな双方向学生交流の促進状況、及び地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材養成等についての情報提供・検証等が行えるため、計画達成の評価指標と考える。
	具体的取組	①「1)地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」、「2)外国語教育」、「3)外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ」について成果報告を全学的にまとめる仕組みを構築し、自己評価書を毎年度公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施する。成果として、PDCAサイクルで情報提供・検証を行うことで、新たな双方向学生交流を促進し、地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材養成に寄与することを想定している。
	評価指標	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用して国際的な教育を実施した授業科目数（第4期中期目標期間中毎年度）
	水準	②大学全体で年間20科目以上
	設定理由	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用した国際的な教育を実施する授業科目を、大学全体で年間20科目以上開講することで、国際的な教育が推進できるため、計画達成の評価指標と考える。
	具体的取組	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用した国際的な教育を実施する授業科目を、大学全体で年間20科目以上開講する。成果として、国際的な教育の推進を想定している。